



不壊

PTAだより
久留米高校

第89号
発行 久留米高等学校
久留米高等学校PTA
編集 企画広報委員会

校 長 誠 誠
副 校 長 智 実
気 配 誠 誠
魄 智 実



校長 岸 宏志



父母教師会長 古賀 泰弘

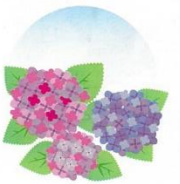
本年度の重点目標は、親あい、認めあい、支えあう集団づくりです。
先日の体育祭で、1年生が、先輩の指導を受けて、楽しそうな表情で様々な競技や応援に取り組んでいたのが最も印象的でした。「とにかく勝て」「とにかく頑張れ」ではなく、集団競技に勝つための戦略や、仲間の競争への自分の貢献まで意識できていたように感じました。リーダーの呼びかけに主体的に応え、協同して

本年度、父母教師会長を務めさせて頂きました。古賀です。平素よりPTA活動にご理解ご協力頂いておりますこと、厚く御礼申し上げます。
高校時代は、先生方から勉強だけでなく人生の先輩として多くを学び、友人と語り合い、将来に夢と希望を抱き、自分自身を見つめて進むべき道を模索する大切な時期です。また、この時期は自己確立、自主自律を学び、成長期の大切な「よき子離れ」「よき親

もつと教えたいと思うものです。ただそこには落とし穴もあり、与え、与えられることに慣れてしまつては受け身の学習しかできなくなります。各自が自分のレベルで主体的に向上できるような、授業を構成し、課題も用意するよう努めています。

ところで、SNS等を使う手ぐ利用できず、困っている生徒が非常に増えました。時間に関係なく繋がってしまうため、他と離れてゆつくり落ち着くことができなくなっています。また、面と向かつての会話とは違うことが分かってず誤解を招き、大きなストレスとなっています。思春期の難しい時期だからこそ、安心して居れる環境が必要です。そこで保護者の皆様には、「認めて支える」ことをお願いいたします。教師が教えずぎではないけないうように、保護者も本人が乗り越えるべき課題を取つて代わつてはいけません。自力で成長するためにも思いっきり苦しませてあげてください。

の皆様、そして先生方のご協力のもと、進路講演会や懇談会、大学視察、留学生交流会等を行い、先生方や生徒として保護者が情報を共有し関わりを持つことで、子ども達のサポートを行うてまいりたいと考えています。引き続きPTA活動へのご協力とご参加をよろしくお願いたします。



平成29年度総会 5月2日に開催!

平成29年度の役員が決まりました。以下のメンバーで1年間、楽しくがんばっていききたいと思ひます。よろしくお願いたします

役職名	氏名	生徒名	年 組
会 長	古賀 泰弘	日奈子	3-6
校 長	岸 宏志		
副会長	國分 五月	真 帆	3-1
副会長	五郎丸 浩	壁	2-1
副会長	中尾 藤宏	飛 翔	1-3
教 頭	山口 隆嗣		
書 記	今井 義江	麻理奈	2-1
書 記	岡 奈緒子	直 希	1-5
書 記	原 幸恵		
会 計	古賀 美保	匠	3-3
会 計	高田 俊哉		
監 事	中野真由美	結 衣	2-6
監 事	行武 電子	秀 真	1-4

熊本地震から1年

『がまだすばい熊本大会』に参加しました!!

6月16日(金)、熊本市で第61回九州地区高等学校PTA連合大会が開催されました。「はぐくもう おもやいの精神(こころ)」をテーマに3つの分科会に分かれてさまざまな取り組みや、PTA活動について研究協議を行いました。

- 第1分科会「青少年の健全育成とPTA活動」
家庭・学校・地域としての役割を再認識し、三者による情報共有と協働についての研究と実践を発表。
- 第2分科会「進路指導とPTA活動」
子どもたちが社会で必要とされる基礎的な力を伝え、ともに学び、自立を支援していくための活動を発表。
- 第3分科会「防災教育とPTA活動」
熊本地震の経験をもとに、子どもたちの危機管理能力の育み方や、地域との連携による災害への対応のあり方を発表。

今回、熊本に行つて、地震の爪痕が残る中、復旧復興に精力的に取り組んでいる熊本の人々の思い、力が伝わる大会でした。一人ひとりが、新しい時代を生きぬく力、「おもやいの精神(こころ)」を身につけていくことが必要です。本大会で感じたこと、得たことを持ち帰り、これからのPTA活動に活かしていきたいと思ひます。



おもやいとは「つなぎ合う」「助け合う」「分かち合う」等の意味です



努力賞を受賞!!

平成28年度福岡県公立高等学校PTA連合会広報紙コンクールにおいて、ジャストショット賞をいただきました。

緊急メールの登録をお願いします

緊急時などの連絡に使うメールの配信を行っています。費用は、父母教師会から拠出しており、個人の費用負担は発生しません。登録がお済みでない方は、右下のQRコードを使うか、「Kurumekoukou@mamail.jp」へ空メールを送信し、登録をお願いします。





実行委員長 田村 陸君

今年の体育祭は、本番前から久留米高校生全員の気持ちが一つになっていたことがとても感じられ、最高の体育祭だと胸を張れるものに仕上がりました。リーダー達が意見を話し合う場面や、全校生徒が一つになって体育祭に臨む姿を見られなくなることはとても寂しいですが、来年はどんな体育祭になるのかと考えるととても楽しみです。僕は、前に立つことに自信が無く、実行委員長をすることになって不安もたくさんありましたが、実行委員長をすることができて幸せでした。実行委員長と呼んでくれてありがとうございました!



赤ブロック長 池尻 聖人君

最初の頃は、リーダーとして未熟だった部分が多くあったけれど、赤ブロックのみんなと練習をしていく中で、自分もみんなと一緒に成長できた体育祭だと思いました。結果は振るわなかったけれど、人生最後の体育祭でこんなにすばらしい経験をさせていただけて感謝しています。

赤応援団長 古賀 駿也君

高校最後の体育祭は本当に最高のものになりました。この体育祭をするにあたって、色々な人に支えてもらいました。この期間で確実に、久高生全員が成長できたと思います。この経験を決して無駄にせず、今後に活かしていけたらと思います。結果は悔しいものになりましたが、後輩達にリベンジを託すとともに、更なる体育祭の発展を願っています。

黄ブロック長 塚本 健志君

体育祭を終えて、本当に楽しかったという一言に尽きます。私はブロック長として前に立つ立場にありましたが、それ以前に黄ブロックの一人として競技も文字もフォークダンスも素直に楽しませてもらえました。それは自分を信じて付いてきてくれた黄ブロックのみんな、そしてリーダーのおかげです。本当に感謝しています。あと二、三回体育祭をしたけれど、もうあれ以上のものを作る自信が無いので、切り換えて、今回の経験を今後に生かしていきたいです。

黄応援団長 石光 大樹君

体育祭本番も含め、練習期間の二週間は本当に充実していたと思います。昨年、部門賞、総合優勝をとれず悔しい思いをし、その悔しさをバネに練習に励むことができました。結果は総合優勝。一人ひとりが頑張った結果でした。この体育祭は学年を越え、ブロックを越え、久留米高校全体で作った最高のものでした。ありがとうございました。

青ブロック長 浅辺 息吹君

僕は、人生最後の体育祭を久留米高校の青ブロック長として臨むことが出来た本当に幸せでした。ブロックの皆やリーダー達に支えられて一回も二回も成長することができました。全力で挑んだ体育祭、最高の思い出になりました。来年の体育祭も、久高生一人一人が輝くような体育祭になってほしいと思っています。本当にありがとうございました。

青応援団長 村岡 慶介君

私は本当に応援団長をすることができて幸せでした。応援団長をするにあたって、私には支えてくれる仲間がいました。仲間がいてくれたからこそ、応援団長を最後までやり遂げ、今までにない最高の体育祭にすることができたのだと思います。来年は今年以上の体育祭になることを楽しみにしています。